

病気や障害のあるドライバーのための座位保持サポートクッション の開発

NPO 法人日本身障運転者支援機構

理事長 佐藤正樹

① 「病気や障害のある方の安全な自動車運転を検討する」

これまで、リハビリテーションにおいては、自動車の運転を実現させるまでが支援の対象であり、安全な運転ができるかどうかについては、本人に委ねられていました。しかし、現代においては、病気や障害のある方の自動車事故の社会問題化や道路交通法の改正等によって、自動車の「安全な運転」についても、リハビリテーションが関与せざるを得ない状況となっていると、私たちは考えています。また、地域リハビリテーションが推進される一方で、十分な自動車訓練を実施できない医療機関に入院し、訓練を受けないまま運転を再開せざるを得ないケースが増えていることも、安全な運転を実現させる上での阻害要因となっていると考えています。

② 「安全運転を阻害する要因、それが運転中の座位保持」

病気や障害のあるドライバーにとっての事故リスクについて、意識障害や認知機能障害が問われることが多いですが、私たちの活動を通じた印象や、当事者アンケート、聞き取り調査等によれば、事故リスクが最も高く、又当事者が最も危惧していることが、運転中の座位保持や、ハンドルやペダルの確実な操作（身体能力）でした。実際に多くの身障ドライバーが、運転中に座位を保持することが出来ないことが原因で事故やヒヤリハット事例を経験しています。特に、事故回避のための緊急操作（急ブレーキや急ハンドルで事故を回避する）場面で座位保持のリスクは最大化し、座席からの転倒や操作不能が発生しています。

③ 「座位保持サポートクッションの開発」

私たちはこのような実態や当事者の声を踏まえ、座位保持サポートクッションを開発しました。このクッションは車の揺れや旋回時の遠心力でドライバーの身体が不用意に揺れてしまうことを抑止し、座席からの転倒を防止するものです。また、上肢全体が座席にホールドされることによって、座位保持のための手足の筋力を運転操作に専念させることができ、的確な運転操作に寄与します。

展示クッションは脊髄損傷や片麻痺のドライバー用として開発した試作品で、2016年4月販売予定です。今後は、様々な障害部位に特化した製品や、同乗者用製品（通所サービス等介護事業者向け）の販売を予定しています。

さらに詳細は日本身障運転者支援機構ホームページをご覧ください。